

				部会名	人づくり
施策No.	3-3-2	施策名	青少年の社会教育	施策主管課	生涯学習交流課
■内部評価について					
①成果指標について		<ul style="list-style-type: none"> ・成果指標の項目は施策の目指す姿に沿っているか。 →成果の把握に関する予算的・技術的などの制約を考慮すれば、現状では目指す姿に沿っていると判断する。ただし、活動参加の有無を集計した数字は厳密には「成果」とは言えないため、「成果」の把握について工夫の余地がある。また、意識調査を指標とする場合は母数を明記すべき。 ・目標値の設定は適切か。 →最終的な目標値に向けて少しずつ目標をあげていく方向性は、現実的かつ妥当と判断する。 ・他に考えられる指標はないか。 →施策レベルの成果指標は、上述の通り現状ではこれでよい。ただし事業レベルの指標については、不十分などところがある(家庭教育講座の出席者数、キャンプ参加者の満足度)。 ・成果指標の経年推移についての確な分析を行っているか。 →施策評価シート「3成果指標の達成状況」の記述(参加者の増加は見られるものの、直接活動に関わる市民は減少している)が、どの指標を根拠としてなされているのか不明確である。 			
②施策を構成する事務事業について		<ul style="list-style-type: none"> ・施策を構成する事務事業は相対的に必要十分で過不足のないものになっているか。 →地域行事やボランティアについては、一般市民の生涯学習や、学校教育とも関連するため、これらの関係する施策の事業との連携によって、青少年対象のこの施策の取り組みもより効果的になると考える。 ・目指す姿の実現に貢献している事業か(貢献度の評価・判断理由は適切か)。 →妥当である。 ・市民ニーズや社会情勢の変化により、市の関与の必要性が低下した事業はないか。 →ない。 ・施策の目指す姿を実現するために、さらに成果の向上を図る事業はないか。 →ない。 ・他に考えられる事業はないか。 →かつて存在した「青少年団体連絡協議会」のような、青少年関係団体間の横のネットワークが必要である(必ずしも行政が仕切る必要はない)。また「青少年関係団体への補助」の対象が、現状ではこの事業の存在を知っている一部の団体に限られていると考えられるため、補助に関する情報提供など、市内の他の団体にも補助を受ける機会を平等に与える配慮が必要である。 			
③施策の総合的な評価		<ul style="list-style-type: none"> ・施策の主な取り組み成果や成果指標の推移、施策を構成する事務事業の検証等を踏まえ、施策の目指す姿を実現するための問題点・課題が明確になっているか。 →(課題)の「子どもの頃から学区を越えた交流や体験活動の機会を設ける必要がある」の記述の根拠が、どの配布資料の中にも見当たらない。また(今後の方向性)の内容が、いずれも現状認識にとどまっている。これらの認識を踏まえた記述(ヒアリングや口頭説明での発言要旨など)の追加が必要である。 			
④シート記載内容について		<ul style="list-style-type: none"> ・施策の取り組み実績や、事業内容等、わかりやすい記載内容となっているか。 →上記各項目に関連意見があるため、改めての意見はない。 			